

ファイブ・スペシヤリテイ

亜硝酸塩系の効果持続

三菱ガス化 開放系にも利用可能 と特許取得

ダイヤアクアソリユーションズ

ダイヤアクアソリユーションズは、空調の冷温水系防食剤で販売攻勢をかける。同社は親会社の三菱ガス化学と先ごろ、防食剤に使われる亜硝酸塩に特定のイソチアゾン化合物を配合することで、亜硝酸塩の防食効果を失わせる細菌の繁殖を抑える技術で特許を得た。これにより、細菌が入り込むため従来は亜硝酸塩が使えなかった開放水系でも安定した防食効果を発揮することができるようになった。同社はすでに、この技術を活用した製品を蓄熱槽向けなどに販売しており、特許取得を弾みに一層の普及拡大を図る。また、技術供与も積極的に行っていく。

食水系に入り込むと、亜硝酸を酸化して硝酸に変えてしまう。この酸化による分解は急激に起こり、短時間で分解する。

このため、これまで亜硝酸塩系の防食剤の使用は、密閉型冷温水系などニトロパクターの繁殖が起らない系に限られて

いた。半密閉の蓄熱槽を備えた冷温水系に使う場合は、各種の殺菌剤や抗菌剤が添加されてきた。し

かし、従来の薬剤は水中での安定性が悪く、また亜硝酸塩との配合自体も困難であり、殺菌・抗菌処理が手遅れとなることもあるため、亜硝酸塩はほとんど使われていなかった。

空調の冷温水系防食剤

蓄熱槽向け 普及拡大に弾み

三菱ガス化学とダイヤアクアソリユーションズの発明は、殺菌・抗菌剤として特定のイソチアゾン化合物を用いる。同化合物は、水中で極めて

安定かつ、亜硝酸塩との配合性も良好なため、開放水系でも安定した防食効果を発揮する。蓄熱槽を備えた冷温水系で利用できることはもとより、一般の開放型循環式冷却水系にも利用でき、同水系では世界初の技術となる。ダイヤアクアソリユーションズでは、同技術を活用した防食剤の「コントプライムKI6800」を蓄熱槽向け、「コントプライムTI3500」を工場向けに販売している。

亜硝酸塩は、炭素鋼に対して緻密な酸化被膜を形成する優れた防食剤として知られている。だが、防食効果を失わせる細菌(ニトロパクター)が防